

## 知床半島〈第2次遠征〉

昭和40年春期活動

3月7日～3月20日

鈴木孝尚

我々のクラブはとつては2度目の知床行である。すなわち3年前羅臼温泉をベースとして羅臼岳、硫黄山を目ざしたが、この時は天候に恵まれず硫黄山を目前にして退去せざるを得なかつた。(この記録は踏査2号及び踏査技研特集に掲載) そういう意味においても今回は頑張らねばならなかつた。そして今活動に於いては4人というメンバーにもかかわらず、前計画の羅臼岳、硫黄山それに知床岳を含めてより一層大きな計画を立てた。

結果は前回に較べ非常に天候に恵まれ大成功をおさめたのである、これにはメンバー4人が各々 $\frac{1}{4}$ の義務と責任をはたしたことも忘れられない。

以下知床岳、硫黄山、羅臼岳踏破の記録である。

大阪を出発して3日目、3月9日ようやくのことで現地連絡本部である知円別の小野塚氏宅につく、大阪から離れること1500 Km あまり、この知床は一面雪に蔽われ春の訪れはまだまだの感じである。ここ知円別は知床半島の東側にあり、一方を知床山脈がおしよせ他方を根室海峡に面し、そのごくせまい海岸線を一本の道路が走り30～40戸の家が道路の両側に点在している。

また根室海峡をへだてて国後島が手にとるように望める、やはり日本の果という感じがするしこれから岬の方に進むにつれては、よく言われる「地の果」の感もしないではない。

夕食後小野塚氏をかこみ我々の計画を話しこれに関して、小野塚氏の経験から色々参考になる話を聞く。

3月10日 ① - ⊗

本日は予定通り1名を食糧整理のために残し、3名でトツカリムイ(オシヨロ

ツコ川口)からの取付点の偵察に出かける、トツカリムイまでは海岸線であり起伏もないので楽に行けると考えていたが、いざ歩いてみると積雪が多いうえに海岸線であるため雪がしめつて重いのである。

海岸線にはおしよせてきた流水が広がり、又それが氷山のごとくもり上がったものもあり、北海道ならではの景色である。トツカリムイに着くころには天候は急変し吹雪となつて来た、取付点をオシヨロツコ川の左岸とし、もうひと頑張りしてトツカリムイ岳北のゴルへの目やすをたてた。

### 3月11日 ⊗ 吹雪

夜半から猛吹雪であつたので今日の天気が心配であつたが、やはり吹雪であるこの小野塚氏の家が海に面しているためもあらうが、ものすごい風である。家の柱がみしみしとなる大阪ではこんな風は台風の時ぐらいであらう、仕方なく今後の打合せ等を行い明日に期待をかけた。

### 3月12日 ① — ② 風強し

風は強いが好天である。冬用テントと全行程16日分の食糧をかついだ我々4人は、海岸線のラツセルを最初に知床岳へと歩を進めていった。途中ぎつしりとおしよせた流水の上をラツセルをはぶくために歩いた。この流水の間をぬつて小さい漁船が勇ましく活動している、我々はスキーが下手なのでスキーを持つて来なかつたが、いかに下手といえどもこの海岸線ではワカンに比べ相当楽にいられたのではないかと考えながら進まざるを得なかつた。そしてこの日はオシヨロツコ川をわずわに上つた風の当らぬ所にテントを設営した。

念のため一昨日のルート考案のあとを確めに出かける、第1日目が比較的スムーズにいき歯車が除々に動きはじめたようである。

### 3月13日 ③

テントの外を見ると曇つている、しかしかなり視界はきく、今日の行程の半分程までは、ルート考案をしておいたので、たつた広い深雪の樹林帯もむだなく進む、それに傾斜もゆるい、たつた400m登るだけである、樹林も2~300mあたりの所では我々の背たけ位になり、左手にトツカリムイ岳を目じるしに

通称ハイマツ台という773.9mの台地の直下へとむかう。そしてこのあたりから又樺の木等の樹林となり、かなりのラツセルに苦しむ。ここからは南へトラバースを続け予定よりかなり早く11時頃トツカリムイ岳北のコル(400m)に着く。このコルはかなり広く、ルサ川乗越、ルシヤ川乗越まではほぼ同じ高さで続いている。樹林帯の中ではあるが念のためブロックをつみ、知床岳へのベースとした。午後からは知床岳アタック用の食糧、装備をととのえアタックのメンバーを、和田氏、三浦と決定した。距離的にいつでも10kmもありビバークもしなければならぬ。私としては好天をのぞんでやまない。

3月14日 ◎ ☒ 風強し

さあ今日は知床岳へアタックの日だ、だがテントから見えるものはガスにぼやけた、あたりの木だけである。上の方はどういう状態だろうか、そこでハエマツ台の方に向つてラツセルを兼ねて出かけた。少し登ると樹林は切れた、やはり風がだいぶある。雪も少々降っている。だが天候もこれ以上悪くならないと判断し、和田氏と三浦はアタックに向つた。

一方残つた我々2名は硫黄岳へのルート考索のため、ルサ川乗越まで出かけた。ガスも比較的晴れきみで時々薄日ももれる様になつたので、アタックの方もビッチをあげているだろうと期待できた。

3月15日 ◎ ☒ 風強し

昨日はアタックの方はどの辺まで進んだであろうか、もう知床岳に登つたであろうか、いやそれとも吹雪で寝れぬビバークの一夜をあかしたのでであろうか、いやいやうまくいつているに違いない。などとあれこれ我々は思いめぐらした。1時半頃かすかに笛の音が聞えた。帰つて来たのだ。すぐにテントの外にとびだすと、すつかり雪まみれになつた2人が見えた。

## 知 床 岳 へ

3月14日 知床岳へ

三 浦 嘉 孝

朝テントから顔を出すと昨日まで見えていたトツカリムイ岳もガスの中にその

昨日までの天気とはうつつ変つて今日は五月山にでも登っているようで、暑ささえ感じる。我々は進んだ。しかし考えていたより目的地は遠い。1ピッチ、2ピッチ高度を増すにしたがつて、前方にはピークがいくつも現れる。

1時すぎた頃から右手には又オホーツク海が見えだし、前方の山は目指す硫黄山の第2火口稜線であろう、あの稜線にでるとウブシノツタ川をはきんで硫黄山がその独特な姿を見せるであろう。2時すぎとうとう硫黄山の第2火口稜線にでた。やはりすばらしい、硫黄山へはこの稜線の少し南のピークから、一段落ちた様になつて硫黄山へと稜線が北へむかっている。その稜線の中ほどには噴火跡の一部と思われる石の柱が何本もたち、それに雪が氷付いている所があり、これなどは古代宮殿をしのばせる様であり、しばし今までのアルパイトのつかれを忘れてそれらに見入つた。

今日のテントは予定通りこの稜線と、硫黄山への稜線との分岐点にあたる1.552mのピークの南のコルに設営した。そしてこの日は硫黄山へは分岐点である1.552mのピークからは直接下れなくて、このピークの南北いずれかのコルからトラバースして硫黄山への稜線へ出なければならないということが解つた。

テントを設営したころからあたりは又、ガスに覆われ初め明日の天候が心配である。でもまだ予備日を使つていないので少々停滞しても大丈夫。

何としても今回は硫黄山に登らなければならない。

3月18日      ⊗ = — ○

昨日の晴天で目をやられたらしい。昨夜から目がコロコロしてあまり眠れなかつた。うとうとして目をさますとあたりはだいぶ明るいようだ、ベンチレーターからのぞくと何も見えない。一面のガスだやはり天気は2日と続かなかつたが昨日硫黄山への分岐点である、1.552mのピークのあたりを見ておいたので、少しは気が楽である。

一応アタックに出ることにする、私と三浦の2名で1.552mのピーク南のコルよりピークをトラバースして、硫黄山の稜線へ出るべくトラバースを開始、今立っている稜線はものすごい風で少し雪もまじつてふきつけている。

もちろん視界はまつたくきかない、かなりの傾斜のトラバースにかかつてから

は、風がまともに吹きつけないのか雪が少し軟らかくなり、足場が不安定では  
る。かなり進んだが稜線に出ない、トラバースの途中何度か足下のガスの中に  
尾根らしいものが見える。そして何度か下つてみたがすぐにその尾根らしいも  
のは切れ落ちて、深いガスの中に消えさつている。

そうしているうちにも天候は悪化するのでこれ以上は無駄であろうと判断し、  
テントにひきかえした。テントで協議した結果今度は1.552mのピークの北  
の科尔からトラバースすることに決めた。テントの中で火事さわぎがあつたり  
して昼食が少々おくれ、2時再び琉黄山へと向つた。1.552mのピークを越  
し、北の科尔からトラバースし、簡単に琉黄への尾根へ出た。そこから細いリツ  
ジを行くと昨日見た噴火跡の石柱の前に出た。のぼるすべもなく、その左の斜  
面をトラバースする。やがて目前にはうつすらと前衛の山とおほしきものが姿を  
あらわした。夢中でその頂に登つたが、目指す琉黄山はみえない。あせる気持  
をおさえ、ガスの晴れまをまつた。劇的に琉黄山はその右半分の姿をあらわし  
た。急いで左のピークに移り、ここから火口跡とおほしきすりばち状の台地  
にかなり下降した。その台地では、しばしの間その大変な傾斜の円錐形の山に感  
激した。さあこれから頂上に急がねばならない、雪はよくしまつて気持ちよく  
登れる。あと頂上まで5~60mというところから、ところどころ岩肌も出て  
傾斜はますますきつくなつた。ここからザイルを使つて2ピッチ、ようやく頂  
の2~3m下に出た。頂上まで2人をらんで登つた。頂上からの景色はすばら  
しい、何も目をさえぎるものはない、この1時間ほどの間にガスがまつたく晴  
れたのだ、まるで我々が頂上に着く時間にあわせてくれたかのように。こうし  
た頂上での一服は、かくべつである。

こんなにすばらしく晴れるとはいつこうに考えなかつた我々はカメラを持つて  
こなかつたのが、残念である。だが写真はテントにいる2人がとつてしてくれて  
いるだろう。もう4時半をまわつている、急いでビスケットを口に入れ下山にか  
かつた。途中むかひの我々がテントを張つている稜線に2人の姿をみつけた、  
夕焼にそまつた山々に彼らの呼んでいる声がかすかに聞える。

3月19日           ① - ②

我々の目的である知床岳、琉黄山は2つ共どうやら終つた、今日からは羅白岳  
へ縦走し泊場に1泊し、明日羅白温泉に下るのである。

今日は天気もいいし荷もかなり軽くなりあたりの山々をながめながら軽快に進  
む。ただし私だけは雪盲で片目をやられこのう先なく歩きにくい。

オツカバケ岳、サシルイ岳、羅白岳へと続く稜線は、雄大なスケールでこの半  
島の中央をのびている。オツカバケ岳は羅白側を、サシルイ岳は斜里側をまい

て三峰岳はその名の三つの峰の間をとおり、羅臼岳とのコルについた。  
 ここで第2昼食をとり新人杉本が羅臼岳にむかった。このコルから下る頃から  
 又、ガスが出てきて天候が悪化しそうな気配である。この日は泊場で1泊、あたり  
 は硫黄のにおいがたちこめている、温泉までもうすぐであろう。

3月20日 ㊦

やはり天気がくずれ朝から雪である、天気予報ではこれから吹雪になるらしい。  
 今日温泉で1泊と思えば頑張りもできる。途中視界が悪いためルートを少し誤  
 った所もあつたが、第2の壁、第1の壁の下をトラバースし、里見台を経て羅  
 臼温泉についた。

( 時間記録 )

3/7	8:15	大阪駅発 (白鳥)		
3/8	9:25	札幌着	22:14	札幌発
3/9	9:56	釧路発	12:23	根宗標津
	15:30	小野塚氏宅		
3/10		トツカリムイ偵察	8:10 出発	ルサ川 9:45
	11:40	トツカリムイ	14:00	300m 地点
	14:35	トツカリムイ	16:30	ルサ川
	18:35	小野塚氏宅		
3/11		停 滞		
3/12	8:20	出発	11:10	ルサ川 14:30
		カリムイ	15:15	テント地
3/13	7:15	出発	11:05	テント地 (トツカリムイ岳北 のコル) B.C
		知床岳アタック		
3/14	7:00	出発	12:15	ヨカタブリ 12:40
		乗越	14:05	ビパーク地点 (知床岳ピーク直下)
3/15	8:50	出発	9:00	引返し 13:45
				B.C着
3/16	8:00	出発	3:00	テント場 (約600m 地点)

- 3/17 7:15 出発 14:05 第2火口稜線  
 15:10 テント地 (1.552mピークの南のゴル)  
 硫黄山アタック
- 3/18 7:15 出発 8:30 引返し  
 14:05 再度出発 16:25 硫黄山頂  
 17:55 B.C着
- 3/19 7:35 出発 9:50 オツカバケ岳  
 11:00 サシルイ岳、三峰岳のゴル 11:30  
 三峰、羅臼岳のゴル 12:15 羅臼岳  
 14:00 泊場 テント地
- 3/20 7:00 出発 9:15 第2の壁 10:40  
 里見台 14:00 羅臼温泉

# 西田乾物 K.K.

市場部 大阪市北区池田町(天満卸売市場)

TEL(351) 大代表7451(交換)12・63・90



乾物一般

知床概念図

